

とりす（鳥巢）工法

カワセミ用土柱ブロック

NETIS

No.SK-150004-A

特許：第4060305／商標登録：第521472

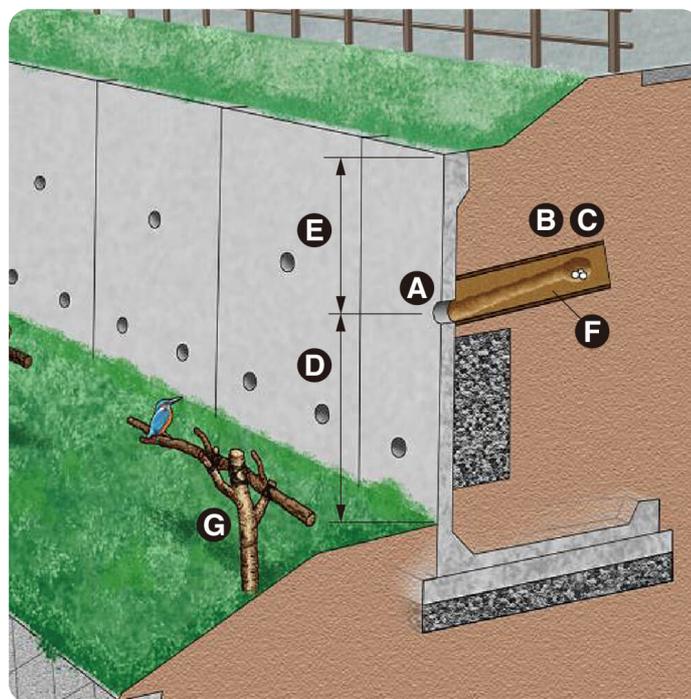
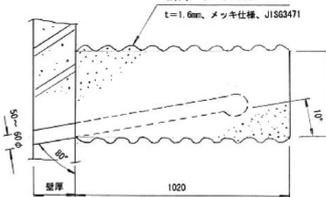
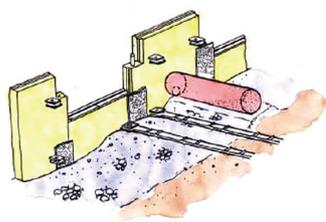
特長

■カワセミ【翡翠・川蜉】は北海道から沖縄まで日本の平地や山、川や池などの水辺近くに生息し、その美しさから「清流の宝石」とも呼ばれています。カワセミは土の露出した垂直な土手に自分で穴を掘り巣作りします。しかし、全国的に巣作りの出来る場所は大変少なくなり数量も減っています。

そこで新設されるほぼ垂直な「プレキャストコンクリート擁壁」を介して、カワセミの繁殖場所（営巣）を提供する「とりす工法」を開発致しました。



カワセミ：（翡翠・川蜉）水辺に生息する小鳥で鮮やかな水色の体色と長くくちばしが特徴。体長は17cmほどで、スズメほどの大きさ。親鳥は垂直な土手に巣穴をつくる。最初は垂直の土手に向かって突撃し、足場ができた所でくちばしと足を使って50～90cmほど横穴を掘る。ここに3～4個の卵を産む。



カワセミ用土柱ブロックの規格と設置基準例

No.	項目	内訳
A	コンクリート擁壁の穴の径	穴の径は6cm程度（一現場3箇所程度）
B	土柱ブロックの内径・長さ・参考重量	φ40cm・L=1.0m・W≒240kg
C	土柱ブロックの鋼製外筒構造	円形コルゲートパイプドメッキ仕様
D	前面の地上または水面から巣穴までの高さ	2.0m～3.0m程度
E	擁壁上部天端から巣穴までの高さ	1.0m以上
F	土柱ブロック内の土の種類	砂質土を含む赤土（シルト質・粘性土）
G	その他	壁面から3m前後の位置に止まり木を設置

施工手順・設置概要





■ 宮巣部の穴



■ 背面の掘削状況



■ 土柱ブロックの設置



■ 埋め戻し



設置可能な擁壁の例

